

平成30年度学生等災害ボランティアリーダー育成事業

活動報告書



[H30.6 災害ボランティア週末合宿]



[H30.7 災害と企業ボランティアセミナー]



[H30.11 災害ボランティアぎずなフォーラム]

平成31年3月

実施主体：公益財団法人石川県県民ボランティアセンター
学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会

事業に関するお問い合わせ：

公益財団法人石川県県民ボランティアセンター

〔 石川県県民文化スポーツ部県民交流課 〕
〔 TEL 076-225-1365 FAX 076-225-1363 〕

事業目的

石川県内の大学では、能登半島地震や東日本大震災を契機に災害ボランティアサークル等が立ち上げられ、それぞれ独自に活動を行っています。

こうした中、地域防災力の更なる向上のため、災害ボランティア活動に積極的に取り組んでいる県内各大学や企業、NPO、県民ボランティアセンター、社会福祉協議会、日本赤十字社などが連携を密にし、県内での災害に迅速かつ柔軟に対応できる体制を整えるきっかけとなることを目指して、平成24年度から研修等を実施しています。

平成30年度の主な事業

6月	23日～24日 災害ボランティア週末合宿（学生対象）
7月	26日 災害と企業ボランティアセミナー（企業対象）
11月	10日 復興ボランティア学ワークショップ（学生対象）
	11日 災害ボランティアさずなフォーラム 「知ることからはじまる復興支援～行動をうながす仕組み作り～」（県民対象）

災害ボランティア週末合宿（6月）

目的

災害ボランティアの基本知識や実践的なスキルを学び、災害ボランティアのあり方について学生自らが考える。

日程：平成30年6月23日(土)～24日(日)

会場：キゴ山ふれあい研修センター

参加者：学生47名（金沢大学、金沢工業大学、金沢星稜大学、県立看護大学、北陸学院大学、北陸大学、金城大学、北陸先端科学技術大学院大学、石川工業高等専門学校、金沢リハビリテーションアカデミー）、その他事務局等7名

1日目午前

災害時の食事を考える

災害時に、避難所などで、被災者の栄養や食生活に関する助言やサポートを行う「日本栄養士会災害支援チーム（通称：JDA-DAT）」として熊本地震で活動した管理栄養士の方から、現場での活動内容や、普段から災害に備えることの重要性を学びました。

時間の経過に伴い食事環境が大きく変化する避難所の現状など、現地支援を行った方ならではの話を伺いました

その後、パッククッキングと呼ばれる調理法で昼食を作りました。ポリ袋、水、鍋、熱源があれば調理ができるため、災害時には大いに活用できそうです！

石川県栄養士会の方から調理方法を習ったあと、デザート（羊かん）を含む計4品を作りました



参加者の声

簡単かつおいしく作れる料理法にびっくりした。

パッククッキングは忘れないうちに復習し、実践したい。

学んだことを大学に持ち帰り、さらに知識の幅を広げ、災害時役立てていきたい。

1日目午後

災害ボランティアの基本

災害ボランティアの受け入れ・活動拠点となる災害ボランティアセンターについて、その機能や、実際の現場の様子を学びました。

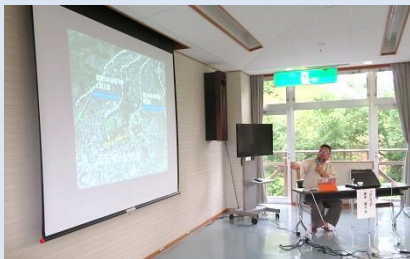
県下で災害が起こった際の対応や、被災地でボランティア活動を行う際の注意点について、石川県社会福祉協議会職員、日本赤十字社石川県支部防災ボランティアリーダーから説明を受けました



1日目午後

地図を使った図上訓練

金沢大学の青木准教授を講師に迎え、石川県、特に金沢市の地形を紐解きながら、活断層地震による被害を具体的にイメージし、災害対策を考えるワークショップを行いました。オフェンス（攻撃）とディフェンス（防御）に分かれ、災害想定とそれに対応する対策をグループごとに分かれて話し合うことで、自分たちの住む街の危険性について認識を改め、災害に備えて行うべきことを確認する機会になりました。



「石川県は災害が少ない」は間違い！
自分の住む地域の危険性を正しく認識することが対策を考える第一歩です



対象エリアで災害が起こったと仮定し
起こりうる問題を書き出す



災害時の問題をクリアするための
対策をできる限り書き出す

班ごとに、災害想定と対応策とを戦わせ、最後に意見交換を行います



参加者の声

エリア内に与えられた条件や状況で想定できることを挙げたり、対策を講じたりすることの難しさを学んだ。

金沢は安全だと思っていた考えを正せたこと、友達とディベートし、考えが深まることで災害に対する視野が広がった。

1日目 夜

災害時に使える応急処置法

夕食後、参加者全員で体を動かしました！
ストッキングを使った腕の固定、毛布を使った担架など、身近なものでできる応急処置方法をはじめ、災害時のトイレなど、避難所の衛生環境についても学びました。



色んな方法が紹介されるたび、参加者から感嘆の声が上がりました



参加者の声

自分にすぐにもできそうなことを学べて、これから緊急時に活用したい。

避難所のトイレなど、日常生活の問題が被災者にとってストレスになり、被災者の立場で考えるということの大切さを学んだ。

災害対応のジレンマ

災害現場で起こる「選択の場面」を想定したクロスロードゲームを行いました。各自がYES、NOの判断をしていき、グループで意見を交換しながら、一筋縄ではいかない災害対応について理解を深めました。

【問題】あなたは災害ボランティアです。家屋内の片付け中に強い余震。被災者からは、「この程度はよくある。あと少しだから頼むよ」と言われましたが…作業を続ける？中断する？

作業を続ける人は「YES」、中断する人は「NO」カードを出した後、なぜそう思うのか、みんなで話し合います



最後には、実際に被災地で活動経験のある講師から講評をもらいました

参加者の声

ボランティアやリーダーなど立場によって考え方も変わるし、判断が難しいと感じた。備えの必要性を強く感じた。

災害の全体像を掴んでいくため、どの学びも必要だと感じた。

グループワークは特に楽しかった。他大学との交流もでき、良かった。

災害と企業ボランティアセミナー（7月）

目的

県内企業の災害ボランティア活動への理解を促進し、企業と災害ボランティアとの関わりを考える。

日程：平成30年7月26日(木) 13時30分～15時 会場：石川県庁1002会議室
参加者：10企業・団体 13名

内容

県の災害時の体制・県内企業の災害支援事例の紹介と、防災クロスロードを行った。



熊本地震被災地で仮設住宅の戸別訪問と青空市で食器を寄贈した事例の紹介（三谷産業株式会社、ニッコー株式会社）

最後には全員でクロスロードを行い、企業・団体としての災害対応を考え、意見を交換しました

参加者の声

実際の被災地の様子や支援の際の行動などを学ぶことができ、大変勉強になった。

「知ることからはじまる復興支援～行動をうながす仕組み作り～」(11月)

目的

東日本大震災からの復興過程における課題を知り、自分の地域の課題発見と対策、対策を講ずる上で必要な連携先を考えることにより、地域防災力の向上に役立てる。

日程：平成30年11月11日(日) 10時～12時

会場：石川県地場産業振興センター新館 第10研修室 参加者：約60名

第1部

講演

東日本大震災から7年が経った今の宮城県石巻市の現在と、これまでの被災地の活動について、お話いただきました。



石巻専修大学 経営学部
教授 山崎 泰央 氏

講演要旨

「他人ごと」を「自分ごと」にする

- 被災地から離れているからこそ、個人の被災体験だけでなく、災害の全体を俯瞰し、「被災地で起きている問題」に目を向けてほしい
- 災害で表面化した問題は、被災地特有のものではなく、「どの地域にもあるもの」

→ 自分たちの地域で身近にできること1つから始めることが重要

第2部

活動報告

県内で防災活動や災害ボランティア活動に取り組む団体の事例報告を行いました。



◇山島新しいまちづくりの会
地区で実施している防災訓練や避難場所を確認する研修会等、年間を通した取組みを紹介



◇広島県江田島市
ボランティアバス参加学生
実際の支援活動で感じたこと、これからの取組みを発表



その他、江田島市ボランティアセンターの活動状況や支援の課題についても報告がありました

参加者の声

私も災害・防災ボランティアを行っているので、支援に対する向き合い方を深く考えさせられた。

体験者の報告は宝物。今後も体験発表を通じて、活動のヒントをたくさん頂きたい。

町会単位でできる小さな事から始めたい。

番外編

復興ボランティア学 ワークショップ

きずなフォーラム前日には、県内の学生を対象に、宮城県石巻市で復興に取り組む団体の支援経験を元に、被災地の課題を自分の地域に置き換えて考えるワークショップを行いました。



石川県では初開催。
石巻専修大学の学生が
ワークショップを
主導してくれました

今年度の活動成果

県内学生を対象とした宿泊研修では、県内の10の大学や専門学校などから学部・専攻を超えて多くの学生が参加し、災害ボランティアの基本知識・心構えやスキルを習得し、災害に備える意識の向上も図られました。研修受講後には、県が西日本豪雨災害で被害を受けた広島県江田島市へ運行したボランティアバスに参加した学生もおり、被災地での実際の活動に繋がりました。

また、きずなフォーラムでは、東日本大震災からやがて8年が経とうとしている今、災害の全体を見渡し、日頃から地域で課題を発見して対策を行っていくという一人ひとりの心がけ、積み重ねの重要性を学ぶことができました。

全ての事業を通じて、災害支援の現状を理解し、ノウハウを習得することはもちろん、地域で災害ボランティアを柔軟に受け入れることにより、地域防災力を向上させる取組みの必要性を、県民のみならずと共有することができたと感じています。

事業にご協力いただいた皆さま

事業の実施に際しては、多大なご協力をいただきありがとうございました。

- ・石川県栄養士会 猪口 一也 様、橋本 良子 様、坂井 恵美子 様
- ・金沢大学 青木 賢人 様
- ・三谷産業株式会社 河野 豊一 様、藤野 日菜子 様
- ・ニッコー株式会社 菅原 原生 様、長尾 滯 様
- ・石巻専修大学 山崎 泰央 様、柿沼 翔 様、鴨澤 沙弥 様、青木 結花 様
- ・山島新しいまちづくりの会 谷 健一 様 (順不同)



❖ 学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会

複数の大学や団体に所属するメンバーにより事業内容の検討及び結果の検証を行っています。

- | | |
|------------|---------------------------|
| 【委員長】池田 幸應 | 金沢星稜大学 人間科学部 教授 |
| 【委員】武山 雅志 | 石川県立看護大学 人間科学領域 教授 |
| 蜂屋 大八 | 金沢大学 地域連携推進センター 准教授 |
| 新田 雅道 | 小松短期大学 地域創造学科 教授 |
| 古川 浩子 | 石川県社会福祉協議会 ボランティアセンター所長 |
| 北村 裕一 | 日本赤十字社石川県支部 防災ボランティアリーダー |
| 玉屋 匡康 | 石川県県民ボランティアセンター 専務理事兼事務局長 |

研究会ホームページのお知らせ

学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会ホームページ（URL <http://saivolustudy.sub.jp/>）では、事業の内容を随時更新しています。

こちらのQRコードからもアクセスできます→

石川 学生ボラ研究

検索



❖ ホームページの見方

事業の報告

…過去に実施した事業内容をPDFで閲覧できます

活動助成

…被災者支援活動を行う学生団体向けの助成金について案内しています

新着情報

…研修などのお知らせを更新しています

最新記事

…研修やフォーラムなど事業の様子を閲覧できます

是非一度ご覧下さい！